

## 議会運営委員会行政視察報告

日時 7月29日～31日  
場所 北海道士別市・岩見沢市  
内容 議会改革について  
議会運営について

議会運営委員の8人と副議長が、7月29日から31日まで、議会運営、議会改革等について、士別市と岩見沢市を行政視察しました。  
士別市は、北海道北部の中央に位置し、地域の約75割は山林となっています。

平成17年9月に1町と合併し、人口は2万人余で、面積は約1119平方キロメートルです。  
議員定数は17人で、平成24年4月に議会基本条例を施行し、これに基づき市民との意見交換会や議会報告

会等を実施しています。

岩見沢市は、石狩川の東側、札幌市まで約40キロメートルに位置し、平成18年3月に2町と合併し、人口は8万6千人余で、面積は約481平方キロメートルです。

議員定数は現在26人ですが、次期改選からは22人になります。平成25年5月から議長を除く全議員で議会改革特別委員会を設置し、現在、市民への情報発信の充実などについて、協議検討を行っています。

## 総務企画常任委員会行政視察報告

日時 7月8日～10日  
場所 北海道千歳市・苫小牧市・函館市  
内容 防災学習交流施設事業について  
まちなか再生総合プロジェクト事業について  
地域交流まちづくりセンターについて

7月8日から10日まで、北海道千歳市、苫小牧市、函館市を視察しました。  
千歳市「防災学習交流施設そなえる」

市民、ボランティア、防災関係機関が連携し、学習

や訓練を実施することで防災力を高めることを目的とした施設です。委員も実際に体験学習を行いました。

視察直後、苫小牧沖を震源とする震度4の地震があり、訓練の成果が発揮でき、

冷静な対応ができました。  
苫小牧市「まちなか再生総合プロジェクト」

将来の人口減少・超高齢社会に対応した「持続可能なまちづくり」の実現に向けて、にぎわいの創出、公共交通の利便性の向上、まちなか居住の推進などを基本方針にした取り組みです。本市においても共通の課題であるだけに、意見交換も活発に行われました。

このほか函館市「地域交流まちづくりセンター」の

視察を行いました。

## 議会報編集委員会行政視察報告

日時 7月17日～18日  
場所 愛知県清須市  
内容 議会報について

7月17日、愛知県清須市において議会報編集委員会の委員8人で視察しました。  
清須市では、議会報を年4回、臨時会1回、2万7900部発行しています。

雑誌「地方議会人」の市町村議会広報クリニックに応募し、その評価を踏まえ、市民の声欄を創設し、特色ある紙面づくりに努めています。

また、フルカラー印刷や市の行事や催事をページ上段に配置するなど、工夫されています。

ページ構成は本市よりも多く、余白を生かした読みやすさへの配慮もされ、大変、勉強になりました。



## 市民経済常任委員会行政視察報告

日時 7月1日～3日  
場所 北海道室蘭市・江別市  
内容 市民協働のまちづくりについて  
環境産業拠点都市形成について

室蘭市は「ものづくりのまち」として高度な技術集積と産・学・官・民のネットワークを活用して環境産業の集積・拠点化を図り、北日本を代表する環境産業の拠点化で地域産業の再構築・雇用再創出による人口

流出の抑制・資源循環型の地域づくり・他地域の廃棄物処理などで環境問題の解決・軽減への寄与を行っています。渋川市でも環境問題が問われていますので、参考にしていきたい事業展開でした。

江別市は第5次江別市総合計画の主要政策である「市民協働によるまちづくり」を実現するために、市とNPO／市民活動団体等による懇談会を設置しましたが、発展的に「NPO法人協働ねつとわーく」となり、市の空き施設を借り受け「江別市民活動センター・あい」を開設。現在はイオンタウン2階に移転。地域住民が気軽に集える場として利用されています。

## 教育福祉常任委員会行政視察報告

日時 7月2日～4日  
場所 山口県萩市・広島県府中市  
内容 まちじゅう博物館について  
小中一貫校について

7月2日から4日まで山口県萩市と広島県府中市の2カ所の行政視察を行いました。

萩市は、吉田松陰が明治維新を胎動させた土地。高杉晋作、伊藤博文等さまざまな分野で多くの人材を生

み出した萩、長州藩を現代の中に昔がそのまま息づいている街中がすべて博物館。住む人のすべてが土地と歴史、民族、産業、芸術などに関心を持ち、紹介説明ができるよう地域ぐるみで取り組み保存しています。

府中市では「子どもの既有知識を生かした授業づくり」小中一貫校を視察。ここは日本たばこ産業の工場跡地。小学校4校を統合新設して隣接する中学校とで小中一貫校教育を導入し、9年目で全市小中一貫校の教育を実施。不登校解消を目指し、義務教育9年間の学びの環境を地域保護者とともに充実させ、教育のまち府中を目指す実践を行っています。



## 新調理場で試食

9月25日に北部・南部両学校給食共同調理場を視察しました。

北部共同調理場は子持地区中郷、南部共同調理場は渋川地区行幸田にあり、北部共同調理場では最大2200食、南部共同調理場では最大3300食を調理することが可能です。

当日、子どもたちに出された給食と同じものを議員も試食しました。栄養面も十分に配慮され、食べ応えもあり、おいしい給食でした。



試食する市議